

特 44

86

橋前琵琶流

大

宗家

塔

橋旭翁先生授関

の

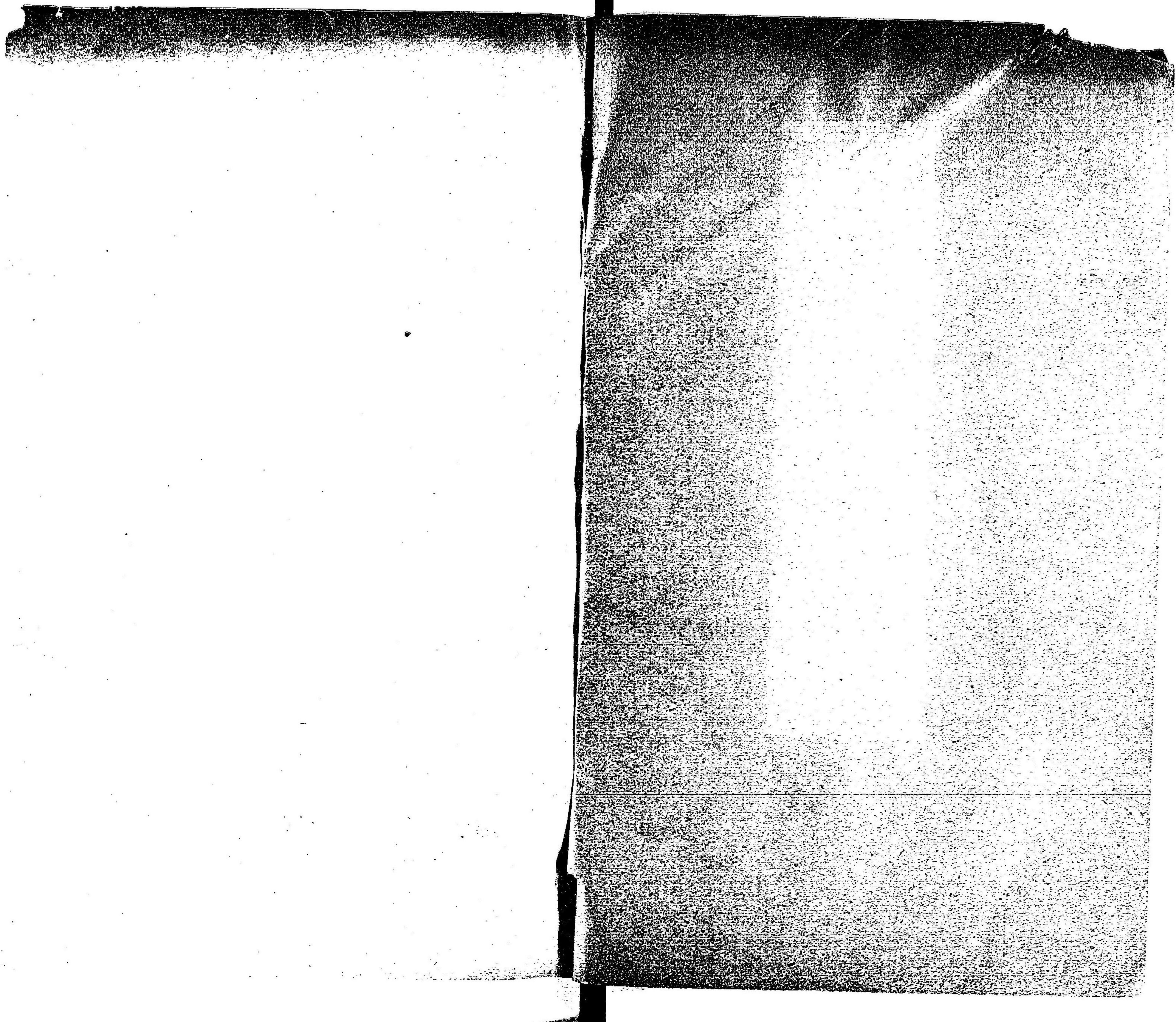
宮

大

下

巻

265
109



意見緒



松中傳

傳

明治
43. 6. 27
内交

己酉初夏

柳江題



錦の御旗 下の巻

斯^{かし}りける所^{ところ}に妹^{いも}瀬^せの庄司^{しやうじ}とて

賊^{ぞく}に一味^{いちみ}の侍^{さむらい}の

宮^{みや}をさへつて申^{まを}す様^{やう}

此^{この}道^{みち}通^{とほ}し申^{まを}すなば

鎌倉^{かまくら}よりぞ罪^{つみ}せられん

左^さは言^いへ宮^{みや}に弓^{ゆみ}引^ひくは

いかにも恐^{おそ}れ多^{おほ}ければ

錦^{にしき}の御旗^{みはた}給^{たま}はるか

左ひひとりなくば一人の御供たんとともを

留とどめて證據しやうこにせんものと

餘よ義ぎもなげにぞ申まをしける

肱こ股この臣しんを一人ひとりだに

いかで残のこし給たまふべき

詮せん方かたなくも御旗おんはたを

彼かれに與あたへて虎とらの口くち

僅わずかに遁のがれ給たまひけり

爰こゝに村上むらかみ彦ひこ四郎しろう義光よしみつは

草鞋わらじの緒をや切きりにけん

遙はるかに後あとれたりいかば

宮みやに追たつ付き申まをさんと

足あし疾とく過する折ましもあれ

妹いませ瀬せの庄司しやうじに行やき合あへり

下しも部べが立たてる旗はた見みれば

心こゝろく錦にしきの御旗おんはたなり

不ふ思し議ぎに思おもひ尋たづぬれば

爾しか々のよよく答こたふるに

村むら上かみ夫それと聞きもあへず

クワツト怒いかりて打うち睨にらみ

こはそも如何に何事ぞ

忝なくも四海の

主にたはします

天子の御子の朝敵を

御追討あらん其為に

御門出ある道にて

汝等如き奴ばらの

左様の振舞すまき様ぞあると

持たる御旗を奪ひ取り

大の男をかいつかみ

四五丈許り投げたるは

獅子の荒に異ならず

此怪力に恐れけん

妹瀬の庄司一言の

答へもなくて逃にけり

義光御旗を肩にかけ

程なく追付き奉り

御前に跪伏し事の由

具さに申上げりかば

宮は誠に嬉しげに

打笑うちめらはせたまひつゝ

北宮ほつみやう黈ゆうが勇氣ゆうきにも

立ちたまされりと賞めで給たまふ

實ざに義よーてる光ひかが勲いんせーは

御旗みはたに打うちたる日月にちげつに

光ひかりああらそふ忠臣ちゆうしんと

語かたり傳つたへて萬代よろざよの

鏡かみとこそは仰あほがるれ

明治四十三年六月十日印刷

全 四十三号六月二十五日發行

發行兼
編輯人

大阪市東區和泉町二丁目一番地
有 村 彌 四 郎

印刷人

大阪市東區和泉町二丁目一番地
藤 井 護 三 郎
電話東四五五九番

印刷兼
發行所

大阪市東區和泉町二丁目一番地
藤 井 改 進 堂
長電話東二七〇番

265

109

